

JOYO BANK NEWS LETTER

2025年9月18日

生成 AI「ChatGPT」のバージョンアップおよび RAG を活用した「営業ソリューション検索サービス」の取り扱い開始について

常陽銀行（頭取 秋野 哲也）は、2024年2月より業務利用している生成 AI「ChatGPT」について、言語モデルのバージョンアップを実施するとともに、RAG^{*}環境を構築し業務効率化を促進する機能として RAG を活用した「営業ソリューション検索サービス」などの取り扱いを開始いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

当行では、今後も最新技術の積極的な導入により経営効率の向上と安定した経営基盤の確立を目指すとともに、培った知見を地域へ還元し、地域社会の持続的成長に貢献してまいります。

※Retrieval Augmented Generation の略称。データベースに格納した情報から回答を生成する技術。

記

1. ChatGPT バージョンアップの概要

当行は、クラウド上の閉域環境に ChatGPT（AzureOpenAI）を構築しており、全行員に利用環境を提供しております。現在、稟議書や企画書のアウトライン作成、翻訳、文書添削等を中心に、月間 1,000 人以上（全行員の約 31%）の行員が ChatGPT を日常利用し、業務の効率化を図っております。

今般、下記のとおり ChatGPT をバージョンアップすることで、行員がより使いやすい環境を整備し、さらなる業務効率化に繋げてまいります。

実施日	実施項目	内容
2025年7月14日	・ RAG 環境の構築 (機能①) 融資審査関連の情報検索	・ 各業種に関する専門情報（業種動向・市場規模・融資審査上の確認ポイント等）の回答
2025年8月29日	・ 言語モデルのバージョンアップ 「GPT-4o」から「GPT-4.1」へ変更	・ 出力可能文字数の大幅増加 ・ 学習データの対象期間拡大 ・ 回答内容の推論精度向上
2025年9月18日	・ RAG 機能の追加 (機能②) 営業ソリューション検索サービス	・ 取引先の事業課題やニーズから課題解決に適したソリューションを回答 (詳細は2をご参照)
	・ RAG 機能の追加 (機能③) コールセンター問い合わせのインバウンドコール用 FAQ 検索	・ お客さまからフリーダイヤルあてにいただいたお問い合わせ内容への回答案を出力



常陽銀行



めぶきフィナンシャルグループ

常陽銀行

〒310-0021 茨城県水戸市南町2-5-5

Tel. 029-231-2151(代表) www.joyobank.co.jp

2. 「営業ソリューション検索サービス」の概要

当行では、第4次グループ中期経営計画における社会課題解決戦略の個別戦略として、「事業者の成長を支えるソリューション提供」を掲げています。

事業者が抱える社会課題に対して、当行、グループ会社および外部機関との連携による複合的・総合的なソリューション提供を通じて、地域事業者の持続的な成長に貢献していくことを目的に、ChatGPTのRAG機能を利用し、課題軸から適切なソリューションを導き出す「営業ソリューション検索サービス」の行内での取り扱いを開始しました。

本サービスの導入により、行員の経験や知識によるところが大きかったソリューション提案を平準化し、状況に応じた広い視野での提案に繋げることが可能となります。

当行行員が本サービスを生成AIによる「営業コンシェルジュ機能」として活用し、事業者の幅広いニーズに対応した総合提案の実践を積み重ねていくことで、行員1人1人のスキルアップを図ってまいります。

(営業ソリューション検索サービス 利用例)



介護事業者で複数の介護施設を持つ事業者から以下の相談がありました。
現在、タイムカードで勤怠を管理しており、タイムカードから出力した結果を給与システムに手入力しているため非効率です。効率的な勤怠システムはないですか？

効率化を図るためには、クラウド型の勤怠管理システムの導入が非常に有効です。
以下のサービスが特におすすめです。

1. サービスA

クラウド上で勤怠管理を一元化し、打刻から勤怠申請、集計まで自動化できます。集計したデータは給与計算サービス用に出力できるため、バックオフィス業務を大幅に改善できます。PC・タブレット・スマートフォンがあれば、従業員はいつでもどこでも打刻可能で、勤怠状況や残有給数も簡単に把握できます。タイムカードやエクセル運用からの移行に特に効果的です。

2. サービスB

(サービスBの詳細説明)

3. サービスC

(サービスCの詳細説明)

これらのシステムは、複数施設の勤怠データを一元管理でき、給与計算との連携もスムーズです。

課題解決に適した、当行で紹介可能なソリューションを提案



3. 今後の生成AIの活用について

行員の業務効率化および業務品質の向上を図るため、RAG機能を活用したユースケースの更なる拡充を進めてまいります。また、インターネットから完全分離した環境で自律的に動作する「業務特化型のAIエージェント」等、新たな生成AIシステムの導入や利活用方法についても継続的に研究し、実装してまいります。

以上